

横浜市小学校社会科研究会

3 学年部会

研修会記録

第 1 号

令和2年 9月 9日

横浜市小学校教育研究会

会長 相澤 昭宏

横浜市小学校社会科研究会

会長 梅田 比奈子

同 学年部長 岡村 伸一郎

【提案日時】

7月 1日 (水)

提案 岡村 伸一郎先生 (瀬ヶ崎小)

【会 場】

横浜市立平沼小学校

司会 研究推進部

記録 学年運営部

令和二年度 研修会主題に迫るための視点 (第三学年部会の方針)

視点① 子どもの予想と見通しを大切にした単元づくり

ポイント

1. 子ども自身が学習計画を立てる。
2. 子どもが、見通しをもって社会的事象の意味等 (指導要領参照) を追究する。
3. 子どもが、自らの学習をふり返る。

●単元の導入場面

子どもの生活経験・既習事項をみとる。

●子どもが社会的事象に出会う場面

子どものそれまでの認識とのずれや「意外性」をもとに「単元を見通す学習問題」を生み出す。(数時間先までの学習計画が立てられるもの)

●「自らの学習を調整しようとする姿勢」

(学んだことを社会や生活に生かす)単元の途中や終末において、自分の考えをまとめる。ふり返り。

ポイント

何 (学習内容) をどのように (学習方法) 学んだのか自覚 (必要感) できるようにする。

「〇〇の学習では～だったから、もしかしたら△△でも～かな。」

「～を調べると～が分かった。だから次の学習でも同じように調べよう。」

教師の「ふり返り」の生かし方

ふり返りを書く指示の言葉 (仕方)

《視点①について、研修会を通して吟味すること》

- ・「単元を見通す学習問題」の解決に向けて、子どもの予想や見通しをもとに学習計画を立てたことが、その後の子どもの学習過程にどう生かされているか。
- ・子どもが、何を (学習内容) どのように (学習方法) 学んだかを自覚するためには、どのようにふり返りを行うとよいか。→「社会や生活に生かそうとする姿」につなげる。

視点② 本気の学習問題を追究し、社会的事象の意味等に迫る授業づくり（本時）

本時で「本気の学習問題」について、子どもが主体的に話し合う中で、**社会的事象の意味等**に迫ることを目指す。

「本気の学習問題」とは

子どもが本気で追究せずにはいられないような学習問題
話し合うことで、**社会的事象の意味等**に迫る問題
（子どもの思いと教師のねらいのベストミックス！）

「社会的事象の意味等」とは（学習指導要領参照）



★大切なこと

①「本気の学習問題」の成立過程

どのように成立したか（ベストミックスになっているか）

②本時目標の具体化

社会的事象の意味に迫るものか 子どもが何を話し合えばよいのか

③本時目標を達成するための手だて

資料の精選、資料提示のタイミング 板書、問い返し、発問、教師の出場など

④子どものみとり

概念的知識を獲得しようとする姿は、子どものどのような言葉で表現されるのか。

子どもの発言、ふり返りへの価値付け、意味付け

《視点②について、研修会を通して吟味すること》

・本気の学習問題の**成立過程**

（成立過程を丁寧に追うことで、本気の学習問題を子どもたちがどのようにとらえているかを明確にする。）

・「本気の学習問題」が**社会的事象の意味等に迫るもの**になっているか。（本時目標を大切にする。）

・子どものみとりにもとづいた、社会的事象の意味等に迫るための**手だて**

（資料の精選、資料提示のタイミング、板書、問い返し、発問など）は適切なものか。

・1時間の授業の中で概念的知識を獲得しようとしている姿とはどのような**子どもの言葉**で表現されているか。

グループディスカッション

・まちたんけんをどうするか。先に市の学習をしてから自分の地域の学習にしてもよいのではないか。消防署は出前、人数制限での見学となるだろう。

・まちたんけんは2年生と連携したい。

・調べ方を考えることは、調べる視点をもつことにつながる。

・販売のアンケートは導入でよくするが、それ以外では方法はないのか。

浦島小学校 烏山 真 先生

・本当に大切なことは何かを考える一年になる。

・自分のもとめることと子どものもとめることの一致が望ましい。一致していることは子どもが主体的であるということである。例えば、総合では、子どもが調べたいことを調べているが、それを教師が価値付けることで学びになる。